

党改革に関する報告

幹事長として昭和五十二年四月二十五日、党改革・躍進総決起大会で行った報告の全文。
全党員の参加による総裁公選制度を打ち出す

わが党所屬の国会議員をはじめ、全国より参集された大会代議員各位、ならびに各界、各層から多数の方々のご臨席を頂き、本日ここに党の再生と躍進を目指して党大会を開催することができましたことは、まことにご同慶の至りであります。

近年わが国をめぐる内外の情勢は、年とともに深刻さを加え、解決すべき課題が山積しております。しかるにこれにきびきびと対応しなければならぬわが党は、多年にわたる政権政党の情性から、その組織は閉鎖的となり、その行動は硬直化し、この事態に対する機動的な適応力を欠くようになってまいりました。とりわけ昨年からは、ロッキード事件を契機として党の在り方に対する厳しい批判が生じ、ついに一部の同志が離党する結果を招き、その余震はまだ止まるに至っておりません。

こういふ状況のもとで戦われた昨年暮れの総選挙において、わが党はかつてない敗北を招き、辛うじて単独政権を維持することができたものの、政局の眞の安定はこのままでは寛束ない現状であります。これらの事実を冷徹に受け止めるとき、党改革はわが党にとってあらゆる政策に優先する政治課題であるといわねばなりません。

今次党改革の主眼は、中央、地方を通じて顕著となってきたわが党の議員党的閉鎖性を矯正し、派閥間の対立と弊害をとり除き、その象徴的表現といわれた総裁決定の方式を制度的に改め、もってわが党をすべての国民の前に開かれた、新鮮で活力の溢れる国民政党に再生させることにあります。

この改革案は、本年一月の党大会で約束したとおり、僅か二カ月の間に関係者の熱心な検討のもとに、全員の同意を経て成案を得ることができました。私はこのことに何よりも大きい誇りを覚えております。さらにその間、わが党の宿弊といわれた「派閥」は、関係者の自発的意思によつてつぎつぎと解消の運びになりました。また最大の懸案であった総裁選出の方法についても、全党員および党友の参加を見るといふ徹底した民主化がはかれることになりました。しかもこれらが、何らの紛糾を招くことなく実現さ

れることになったのであります。

このことは、黨員各位の時局に対する憂慮の念と、自己改革に対する熱意が並々ならぬものであることを示すものとして、まことに心強い限りであります。

私はこの際、連日党改革案の検討に当たられた第一委員長 福永健司君、第二委員長 竹下登君、第三委員長 細田吉蔵君、第四委員長 小坂徳三郎君、第五委員長 渡海元三郎君をはじめ委員の各位、事務総長 中川一郎君、さらに都道府県連支部連合会、青年部、婦人部の各代表、学識経験者の方々の精力的なご努力に深甚なる謝意を表すものであります。

この際、答申の内容について、その概要をご報告申し上げます。

その第一は、全黨員参加による総裁公選への改正であります。従来の総裁公選規程は、当初の意図に反して派閥の弊害を助長し、一部に「諸悪の根源」であるとの批判を生むに至りました。そこで今回の改正では黨員大多數の要望を入れて、総裁候補を決定する選挙には全黨員の参加を求めることとし、その上位二名について、党所属国会議員による総裁決定選挙を行なうことにしたのであります。これにより全黨員の意思の向こうところが民主的に尊重、反映

されることを期待されるものと信じます。

第二は、党組織の強化と自由国民会議の結成であります。総裁公選への全黨員の参加に伴い、黨員の資格を明確にする一方、二百万黨員の獲得と地方組織の整備強化を行なうことにいたしました。

また、わが党に入党はしないが、わが党を支持し、相携えて自由社会を守るという共通の連帯意識を持つておられる農林漁業者、商工業者、サラリーマン、主婦、青年その他宗教界や文化界など広般なわが党支持層があられます。従来これらの方々とわが党の連帯を強める努力は必ずしも十分ではなかつたのであります。今回これらの方々によつて「自由国民会議」の結成を推進されることになりました。また、これらの方々の総裁公選への参加も、組織の発展と並行して実現してまいる考えであります。

第三は、党財政の確立についてであります。

わが党の財政は、これまで一部法人からの寄付にその大半を依存してきましたが、今後はなるべく多数の法人および個人から浄財を仰ぐことに重点をおくとともに、党費を増額し、自由国民会議の会員の方々からも会費の形で援助を求めるといたしました。

第四は、広報活動の強化であります。

広報活動こそは党の組織化の尖兵であります。この意味でわが党の広報活動は、その質的向上と量的拡大を積極的に進めなければなりません。このため党機関紙「自由新報」の充実をもとより、その全党員による購読制を実施し、あわせて「月刊・自由民主」など各種の出版活動の強化も推進する考えであります。

最後に、派閥の解消についてであります。これは先に述べましたとおり、この答申の審議が進められている間に、すでに既存の派閥はつきつきに解消されたことはご承知のとおりであります。一部にこれは「偽装解消」ではないかとの批判がありますが、わが党が広く国民に開かれた政党に脱皮する以上、旧来のような派閥の存続はもはや許されるものではありません。また総裁公選規程の改正により、派閥の連衡による総裁選出の途も制度的に閉ざされることになったのであります。

ただ従来の議員集団が果たしてきた機能、たとえば新人の発掘、党員の教育と情報交換等は何らかの形で党自体によって継続されなければなりません。派閥解消後のわが党について、その活力の衰退が云々されるようなことのないよう配慮しなければなりません。党機関の重要な任務はこいつった党内活力を保持することにあるからであります。

以上、党改革実施に関する答申の概要についてご報告申し上げましたが、もとよりこれらはさしあたり取り組むべき緊急課題であります。取り敢えずまずこれらのことを実行しつつ、さらに時代に即応する改革を着実に進めてまいることが申すまでもありません。

戦後わが国は、世界の歴史に類例をみない驚異的な変革を成しとげました。しかもその変革は、その速度と規模において、欧米先進諸国のその数世紀分にも匹敵するものであります。もとよりこの変革を推進したのは国民の勤勉と能力の賜物であったが、それを正しい方向に誘導し推進したのは他ならぬわが党の先輩たちの英知と実行力でありました。しかしながら、政党は本来、その時々々の政策目標を達成しながら、常に変化する国民意識を吸収しつつ、絶えざる「自己変革」を遂げなければその生命力を維持できるものではありません。

わが党は長期にわたって政権の座にありました。その間わが党には政治運営に対する思いがりと過信が生まれ政党として当然なさねばならぬ自己変革が十分なされず、政策的にも柔軟な対応ができなくなつたうらみがあります。その結果、いつの間にか国民の意識とわが党の対応の間には乖離が生じ、議員党的閉鎖性と政策的対応におけるマン

ネリズムを助長し、党勢の不振を招くに至ったのであります。その上に近年は、石油危機に端を発した経済の混乱と停滞、さらにはロッキード事件の発生などが重なり、わが党は国民の厳しい批判の前に立つに至ったのであります。

この議員党的閉鎖性と政策的対応の硬直化は、自らの怠慢によって生まれたものであります。これらの壁を自らの努力によって打ち破らない限り、国民はわが党の前途に新たな信頼と期待をつなぐことはないと思います。今次の党改革は、このような反省と決意のもとに実行されようとするもので、われわれはこれを党再生の最後の機会であると受け止め、真剣にその実行に挺身しなければならぬと考えます。

われわれはこの改革を契機として、党の自己改革をなしとげ、新しい活力をもってわが党の国民に対する責任にこたえなければならぬと考えております。われわれは、その活力をわれわれの意識と行動パターンの変革に求め、さらには人材の育成とその積極的な登用の中に見出そうと考えております。

今日、世界は問題続出、緊張連続の時代に突入しております。先進諸国はひとしく果てしないスタグフレーションに悩み、開発途上国はおしなべてナショナリズムの強まり

の中で、政治と経済の自立達成に未だ確たる展望をもつに至っておりません。世界の前途は深い霧に包まれております。これまで快速を誇ってきた日本丸も三つのエンジン・カントリーとして評価されてはいるものの、今日、スピードをおとし、警笛を鳴らしながら海難を避けることが精いつばいの状況であります。

われわれはこの危機を、われわれに新たな適応を迫っているものとして受けとめ、十分な準備を整えつつ適切かつ堂々たる対応力を発揮しなければなりません。その時々々の現象にひきずられたり、人気とりに走る短絡した要求に迎合したりして、一時的な弥縫策に終始してはならないのであります。われわれは、ただ道徳的に危機に対して責任を感じるに止まらず、進んで歴史の法則に従って勇氣をもつて行動しなければなりません。その意味で、冷静な判断と静かな勇氣に裏打ちされたわれわれの意識と行動パターンの変革が、今日ほど強く期待されている時代はないと考えています。

また新生自由民主党の体質改善は、時代の負託にこたえ、危機に対応できる人物の出現によつてはじめて実行されるものであります。すべてが人であるといわねばなりません。われわれ執行部の重大な任務は広く人材を発掘し、その積

極的な登用をはかり、政党と国民の間に相互の信頼と相互の依存關係を打ち建てることであります。われわれは中央、地方を通じ、議員であるか否とにかかわらず、有為な人材を広く求めてまいる所存であります。

党のためになる人物に要求される資質は、まず党に何を期待するかを考える前に、党が自らに何を求めているかを自覚し、献身的に行動する人でなければなりません。元來、事態や状況を改めるためには、相手の態度を変えさせることに腐心するよりは、むしろまず自らの決意と姿勢を変えることが必要であります。現代政治に共通の欠陥は、本音と建前の乖離であり、その距離をテクニクで埋めるところにあるといわれております。こうした弱点を、進んで自らが犠牲になることによつて克服し、自らの変革によつて是正することのできる人材の出現で埋めない限り、国民の政治に対する信頼を回復することはできるものではありません。わが党の中央、地方にこうした人材が処を得、真剣な実践に取り組むことになれば、国民は本音と建前の一致した新生自由民主党に揺るぎない信頼と心からの協力を寄せてくれるものと信じます。

以上、私は党改革の意義と精神を明らかにしてまいりました。われわれは、わが党を開かれた政党に改めることを

通して、国民各層との間に強い連帯と団結を進めなければなりません。同時にわれわれが自らの姿勢に絶えず謙虚な反省を加えつつ、果敢にして柔軟な対応力を強め、内外の危機の克服に立ち向かわなければなりません。本日、党の再生と躍進の大会に当たり、われわれはいよいよ決意を新たにいたしましたと存じます。

また私は各位とともに、來たるべき参議院選挙に出馬される同志諸君の成功を祈り、そのために全力投球することを誓いたいと存じます。

最後に私は、去る四月四日突如として長逝された参議院議員亘四郎君の倂を偲び、その遺徳を追慕しつつ、そのご冥福をお祈りして、私の報告を終わります。